



——日本共産党 北海道議会議員——

丸山はるみ いきいき通信 No.26

道政報告
2025年7月号



ホームページ



Facebook



X(旧 Twitter)



Instagram

子ども政策調査
特別委員会

若者のライフプランー自己決定を大前提に

丸山はるみ道議は6月4日、子ども政策調査特別委員会で、高校・大学生等を対象にライフプランを考える機会を提供するライフデザイン講座について質問しました。



特別委員会で質問する
丸山はるみ道議

北海道は2015年から若者の自立や母子保健、仕事と子育ての両立などをテーマに、出前講座を実施しています。事業開始時、ライフデザイン講座は、高校や大学など20校で延べ808名、2024年度は22校で延べ1999名が受講しました。今年度は、新社会人も対象に、出前講座28回、セミナー

**講座受講の
拡大求める**

4回、ワークショップの開催を予定しているとなりました。

学習指導要領にいわゆる「歯止め規定」があるために、公教育では十分な性教育が行われないままです。適切な選択には正しく十分な知識が必要です。丸山道議はライフデザイン教育がその一助となることを求めました。

**「歯止め規定」に
阻まれる日本の性
教育に人権擁護の
視点を**

これまででも講座の一部で扱っていたプレコンセプションケア。直訳すると「ご懐妊前ケア」です。

丸山道議は、他県が配布した資料には「卵子の老化、35歳女性も手遅れ？」など、不適切な表現があり、

ネット上で批判が広がった事例をあげ、正しい知識を科学的に伝えることを求めました。



最低賃金を今すぐ1500円に、さらに1700円めざして



北海道労働局に要請する共産党道議団
(左から) 丸山・真下両道議

6月10日、丸山・真下紀子両道議が北海道労働局を訪れ、最低賃金引き上げに尽力してほしいと要請しました。

要請書を受け取った労働基準部・牧野雅彦賃金室長から、最低賃金はまず、公益代表、労働者代表、使用者代表で構成する、中央最低賃金審議会で引き上げ額の目安が審議され、その後、各地方

物価高に負けない
最低賃金引き上げを

道議団からは、非正規労働者は全労働者の約4割、女性労働者に限れば、6割にもなる。家計を支える非正規労働者の割合も増え続けており、最低賃金近傍の賃金で働く非正規労働者は多く、最低賃金の伸び悩みが経済成長を阻害しているといつてもいい状況と説明し、かつての「成長無くして賃上げなし」のスローガンは、すっかり鳴りを潜めていると賃上げへの協力を訴えました。

**賃上げこそが
成長戦力のかなめ**

最低賃金審議会で、その目安を参考しながら地域別に審議を行うことが法律で定められているため、北海道労働局でできることは、あまりないと説明がありました。

国内初の地対艦ミサイル訓練を道内で！？

陸上自衛隊幕僚監部は4月10日、国内初の地対艦ミサイル訓練を北部方面隊が実施すると発表しました。これまでは、国内で安全空海域を確保しづらいつ海外で実施してきた訓練です。丸山はるみ道議は6月2日、陸上自衛隊北部方面総監部に訓練中止の要請を行いました。



陸上自衛隊北部方面総監部に
中止要請を行う丸山道議ら

要請は、陸上自衛隊敷地内の駐車場近くの屋外で行われました。

戦後80年、国内で行われてこなかった長距離ミサイル訓練が、今なぜ可能となったのか、地元からは大変な驚きと不安の声が上がっています。丸山道議は、国内初のこのような訓練に道民の理解は得られていないと訴えました。

また、この訓練計画発表後にロシア外務省が、在ロシア日本大使館に強く抗議するなど、他国との緊張が高まる訓練を行うべきではないと強く申し入れました。

「豊かな海づくり大会」 晴天に恵まれ、大にぎわい



式典では小樽水産高校生

爽やかに晴れた6月1日、「第1回北海道豊かな海づくり大会」が開催されました。

徒が、ニホンザリガニの研究を発表。身近にも絶滅危惧種の生物がいると学びました。

イベント会場ではナマコやヒトデのタッチプールが子どもたちに大人気。後志の海産物も並びました。築港臨海公園では、ニシン稚魚の放流が行われました。

道議団、函館で児童相談所やフリースクールなどを視察

5月下旬、道議団は函館市を訪れ、歴史的建造物が並ぶ地域の景観保存や、赤字補填の負担割合見直し議論に関心が集まる、第3セクター道南いさりび鉄道（函館）のほか、相談件数が増加を続ける児童相談所、不登校支援のフリースクールを視察しました。

函館の歴史的建造物群

函館山の山麓一帯は、歴史的街並みが残されており、函館市では都市景観形成地域と指定しています。なかでも歴史的、文化的に重要で伝統的建造物と指定された建築物が多い元町や末広町を歴史的建造物群保存地区としています。指定された建築物等の保全や活用に、函館市は様々な制度で支援。道指定の建築もあり、民間任せでない実効性ある支援が求められます。



二階の外観だけが、洋風の下と洋折衷様式が特徴

フリースクールすまいる

増加する不登校児の居場所づくりと学習支援を行っているフリースクールすまいるを訪ね、越智代表理事と懇談しました。

登録料は前期・後期各1万円を年間一括なら1万5千円と割安に、利用料は月額定額か10回分の回数券を選択可能にするなど、利用者に負担が大きくならないようにする一方で、ご自身はほかにも仕事をしながらの活動です。一定の要件を満たす民間のフリースクールに行政の支援が必要です。

道南いさりび鉄道

北海道新幹線開業に伴う並行在来線として2017年に開業、沿線住民が通勤、通学、通院、買い物などに利用する生活路線として、また北海道と本州を結ぶ貨物輸送のルートとしての重要な役割を担う「道南いさりび鉄道（いさ鉄）」が、今、北海道と沿線自治体は負担割合について話し合いを継続しています。

懇談では、沿線の人口減少による利用客の減少は避けがたく、観光列車「ながまれ海峡号」の運行や、沿線住民との連携で地域の魅力発信に努めていることに加え、道内と本州を結ぶ物流を担う役割の重さが訴えられました。北海道の責任が問われます。



観光列車運行や「いさりび鉄道」、グッズ販売等、経営努力を語る川越英雄社長（当時）



「子どもの気持ちが一番優先」と語る越智代表理事と懇談

蘭島海岸「砂浜守って！」消波ブロック改修要請

道内で、1・2を争う海水浴客が訪れる蘭島海水浴場。以前から消波ブロックかさ上げの要望が、地元から出ています。



右：砂浜から見る消波ブロック
左：状況を説明する地域住民と丸山道議（右端）

5月28日、後志振興局小樽建設管理部から職員が現地を訪れました。2016年撮影の航空写真では、海岸線がさほど後退していないため、かさ上げを実施してこなかった理由を説明をしました。しかし、地元からは砂浜の砂が減少しており、冬季には波が堤防を越えて流木が流れ着いていると、改めて消波ブロックのかさ上げとその配置の工夫を求めました。道からは、要望を真摯に受け止めると返答がありました。

米どころの蘭越町を訪問しました

～高値続く米価と備蓄米放出について～

JAようてい—米農家の大規模化は限界に近い

JAようていは羊蹄山を囲む9町村のJAが2009年に合併し誕生。トップブランドは馬鈴薯で畑作中心の地域です。

今回丸山道議は、米どころである蘭越支所を訪問しました。土橋健一支所長は「JAは農家の事業のみならず、金融、共済、店舗など生活を支えている」と語ります。



土橋支所長と懇談する丸山道議

昨年まで米価を上げられず赤字でも米作りを続けてきた農家は、この米価格でも儲かっているわけではない。政府は備蓄米を放出したが、今後の運用が課題となる。農地の大規模化には限界があるが、

後継者不足により法人化も検討されることになるだろうと米農家は大変厳しい状況です。

—斎藤農場— 持続可能な米価の実現と新規就農者支援を

2023年より有機JAS認証を受け、おいしいものを届けたいと米作りに励む斎藤農場を訪ねました。代表の斎藤貴志さんは「米の市場価格は上がって

るが、米農家の収入はそれほどあがっていない。小泉農政大臣は備蓄米の放出を進めているが、その先は輸入米増加ではないかと危惧している。政府は今年の作付けを増やす方針を出しました。米価がこれだけ高騰しているので、米農家は作付けを増やしていると思うが、来年は米価が暴落しないかと心配です」と斎藤さんは語りました。